

# 研究授業通信

古枝小学校  
研究主任 松林 諒  
令和四年度 11月14日

## 2年生「マットを使った運動遊び」

先日の公開授業お疲れ様でした。事後検討会で出た先生方からの意見です。

### 研究内容①「学習カード」

- 取り組みたい動き（めあて）が一目で分かる学習カードになっていた。
- 自分の取り組んだ動きがシールとして残るので、意欲の向上につながるし、足跡が分かりやすい。
- 発達段階にあった学習カードになっていた。
- 取り組みたい動きに○をつけて、できた動にシールを貼るという学習カードの使い方は、この時間に取り組むことが児童によく伝わっていてよかった。
- シールを貼ることは、頑張り感や粘り強さにつながったと思う。
- 学習カードにいろいろな動きがあり、子どもたちがやってみようという気持ちになっていた。
- できたの赤シールを貼る基準は、教師と児童で共有できていたのか。

### 研究内容②「めあて・ふり返り」

- 「もっと」の意味について子どもたちに明確に示されていたので、子どもたちにとって自己評価がしやすかった。
- めあて→活動→ふり返りの流れが定着していて、子どもたちが見通しを持って活動できていた。
- 授業の最後に、よくできていた児童を紹介したことがよかった。
- 今日のめあては、いろいろなランドで楽しむのか、できたを増やすのか気になった。
- ふり返りの書かせ方について、指導はあったのか。
- ふり返りを全員が記述できているのは素晴らしいが、それをどう生かすかという視点をどれだけ児童が持っていたのか。それができていればやりたいことをより焦点化できたのではないか。
- 児童が何の動きを選んだのか、それを楽しむためにどんな工夫をしたのか、それをどうやって見取るのか。
- 教師のねらうところにもっていけるようなふり返りの紹介を行う。

### 研究内容③「教材・教具」

- 自分にあった技ができるように、多くのランドが設けられていてよかった。
- 子どもたちが自分で場の確保を行っているのがよかった。
- 自然と友達の動きを見てヒントにして動きに挑戦していた。
- ランドの間隔を広くするなどして、安全面に対する配慮が必要だった。
- マットの数が多く、児童が全体に散っていたため、見取りがしにくかった。
- 一つのマットで活動できる人数を制限しなければいけない場面が見られた（かべランド）
- 坂道ランドを途中で追加するなど、児童の必要感に応じた場の提示がされていた。
- 掲示物を使ってルールが徹底されていた。
- 苦手な児童も挑戦できる場がたくさんあった。
- 「○○ランド」は子どもたちにとって、意欲の継続に直結していたと思う。一つ一つの場が児童

にとって魅力的なものになっていた。

- 一人一人の動きを写真や動画で撮りためておいて、掲示や教室で見せるのもいいのではないか。
- 教師が価値付けたいこと（組み合わせ・くり返し）がしやすい場になっていた。

## その他

- 活動前に、着手の手の形や約束事を確認していたことがよかった。
- 子ども同士で「もみじの手ができていないよ」などの声掛けができていた。
- 活動の途中で児童を集めて、ポイントを伝えているのがよかった。
- 活動が停滞している児童への声掛けがよかった。
- 児童の言葉から、「もっと」を広げていくことができていた。
- できたの基準を子どもたちに与えていたので、子どもたちが自己評価をしながら活動することができていた。
- 協働的な学びの具体的なイメージを持つ
- 協働的な学びは体育において非常に重要。児童が目的意識を持って取り組める手立てを考える必要がある。
- できない動きはどのように把握させているのか
- 頭を支点にして回る児童がいたが、前転や後転の指導はあったのか？
- 主運動につながる運動も子どもたちが楽しみながらきちんと行っていた。
- できているの判断が難しい。手本動画を活用したらどうか。
- できたの判断は自分でいいのか？ICTを活用し、客観的に見る場があってもよかった。
- 子どもの活動を保証しつつ、子どものめあての見取りや安全面の保証をどのようにしていくか。
- 疲れや飽きで、後半になると活動が雑になる児童が増えた。
- ふり返りの挙手が少ない。
- 繰り返しを意識している児童が少なかった。やりっぱなしの児童が多かった。
- できたの基準が子どもたちには難しいかな。
- なぜ、モミジの手がいいのか、ピタッと2秒止まるためにはどうしたらいいのかなど思考を促す教師の言葉かけが必要。
- 協働的な学びの部分で、どこを聞いたり教えたりしていいのかわからないので、目線や勢いなどの視点を出してあげる。
- 児童の動きが一方通行になっており、安全への配慮が行き届いている。
- 学習の流れが児童に理解され、自分のめあてややってみよう技を自分なりに取り組み、個別最適な学びの姿が見られた。
- 友だちと一緒に・くり返しや組み合わせ・やってみよう・できたを目指してなど、自分の楽しみ方をそれぞれが見つけていた。
- 個別最適な学びは、児童の姿として表れていたが、協働的な学びとして、本単元でどのような姿を目指していたのか。
- これまでの学習訓練の成果で、めあての立て方やふり返りもとてもスムーズにできている。特にふり返りは2年生にしてはよく書けていた。
- パッと集まったり、テキパキ片づけたりすることができていた。ほとんどの児童が片付け終わりを待って教室に戻っていた。
- マット運動の特性に触れるために「止まる」ことをもっと子どもたちに意識させる。

細かい部分でのご指摘はありましたが、研究の内容としては多くの先生方に評価していただいていると感じました。山口先生ありがとうございました。課題として挙げられた中で、今後の校内研究として考えていけないといけないと感じたことを。

- ① 体育科の学習においては、昨年度からの研究の成果として「個別最適な学び」（一人一人が自分の能力にあっためあてを立てて、課題解決していく）・「協働的な学び」（個人の気づきを全体に広げ、深めていくことや必要感のある対話による課題解決）のイメージができていた。このイメージを全体で明確に共有し、児童にも学び方のスタイルとして定着させたいと考えていた1年目だった。しかし、「個別最適な学び」「協働的な学び」の発達段階に応じた具体的な姿のイメージ不十分だったと感じたので、次年度はそこを明確にし、さらに「個」→「協」、「協」→「個」を意識した授業づくりを目指していきたい。
- ② 「協働的な学び」については、体育以外の教科についても、さほど変わらないイメージで考えていけると思うが、「個別最適な学び」については、教科の特性に合わせて考えていけないと思う。先日出張で行かせていただいた、武雄小学校の研究を参考にしながら、様々な教科における「個別最適な学び」の在り方について考えていきたい。（武雄小学校の研究内容については、別紙資料を配布したいと思いますので、是非目を通してください。）

## これからの予定

これからの校内研究の日程について

1 1月15日（火） or 16日（水）	高学年グループ 指導案検討（2回目）
1 1月25日（金） 5時間目	5年生 吉本先生 「跳び箱運動」 グループ研
1 2月14日（水）	器械運動領域の学習カード作成（冬休み中に完成）
1月18日（水）	これまでの成果と課題の報告と次年度の研究について
2月1日（水）	次年度の研究についての提案①
3月24日（水）	次年度の研究についての提案②（春休み中に完成）